

# 平成27年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

平成26年11月13日

Jトラスト株式会社

## ■当社グループの主な取り組みについて

### M&A

(海外)

#### ▶東南アジアにおけるM&A

- ・インドネシア預金保険機構が所有する商業銀行ムティアラ銀行(インドネシア共和国)の株式(所有割合99.996%)の取得に関する公開入札手続きに参加し、当社が落札候補者に選定され、同機構と条件付株式売買契約を締結いたしました。  
⇒今後、インドネシア金融庁による大株主承認にかかる審査を通過した後、必要な手続きを経ることが必要となります。
- ・東南アジア最大の人口を持ち、今後も高い経済成長が期待できるインドネシアにおいて、当社が有するリテール・ファイナンスにおけるビジネスモデルを海外において幅広く展開し、個人所得の増加とともに急速に拡大しつつあるリテールファイナンスにかかるニーズに総合的に応えることで、インドネシア経済における当社グループのプレゼンスを高め、事業拡大を図っていくとともに、インドネシア経済の一層の発展に貢献します。

- ・子会社である Jトラストアジアを通じて、LCD Global Investments LTD.(シンガポール共和国:シンガポール証券取引所上場)の株式29.5%を取得いたしました。  
⇒今後、LCD Global Investments LTD.を足掛かりとして、今後のASEAN地域や世界各国における人口成長・経済成長の恩恵を十分に享受できる不動産事業をグローバルに展開してまいります。
- ①高い経済成長と人口成長が見込めるASEAN地域において不動産開発・ホテル事業のノウハウを新たに獲得し、当社グループの次のステージの収益の柱としていくことを目指します。
- ②当社と戦略的協業関係を構築し、当社グループが保有するアミューズメント事業及び不動産事業における優れたノウハウやネットワークを活用することにより LCD Global Investments LTD. の事業拡大に貢献します。

#### ▶韓国におけるM&A

- ・子会社であるアドアーズが、傘下にカジノ事業を持つJBアミューズメント株(韓国KOSDAQ上場)が実施する第三者割当増資を引き受け、同社グループと協力関係を構築することに合意し、契約を締結いたしました。  
⇒今後、カジノ事業に関するノウハウの提供等を通じて協力関係を推し進め、双方の強みを最大限活かしたシナジーを創出し、当社グループのアミューズメント事業における付加価値の向上、業容の拡大に努めてまいります。

### 事業再編

(海外)

#### ▶韓国子会社間の事業譲渡

- ・平成26年8月に、ハイキャピタル貸付、ケージェイアイ貸付金融及びネオラインクレジット貸付の貸付事業を、親愛貯蓄銀行に譲渡いたしました。
- ⇒今後、親愛貯蓄銀行は貸付事業に、韓国消費者金融会社3社は不良債権の買取り及び回収に特化した体制へと再編成されます。
- ①事業運営の原資が、高金利の借入金(韓国消費者金融3社)から低金利の預金(親愛貯蓄銀行)となり収益構造が改善されます。
- ②韓国消費者金融3社の顧客基盤を活用することにより債権残高が拡大し、規模の利益の追求が可能となります。
- ③お客様に対して低金利貸付の提供が可能となり利便性の向上が図れるなど、お客様のニーズに幅広くお応えすることができます。

# 平成27年3月期 第2四半期 連結決算概要

## ■連結業績(累計)の前期比較

単位:百万円

	平成25年9月(累計)		平成26年9月(累計)		前期 増減	増減率 (%)	主な増減要因
	実績	百分比 (%)	実績	百分比 (%)			
営業収益	28,845	100.0	31,979	100.0	3,134	10.9	<p>増</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親愛貯蓄銀行が子会社から貸付事業を譲受けたことにより銀行業における営業収益が増加したことや、前期末に取得したケージェイアイ及びハイキャピタルを期首から損益についても連結したことにより貸付金利息についても増加</li> <li>・キーノートにおいて消費税増税前の駆け込み需要の集中によって一部の物件の完工引渡しに年度を跨いだこと等により不動産事業売上高が増加</li> </ul> <p>減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・割賦立替金残高が減少したことにより、割賦立替手数料が減少したうえ、回収がやや低調に推移したことによりその他の金融収益が減少</li> <li>・アミューズメント(AM)事業において店舗閉店や消費税増税の影響等により、AM事業売上高が減少</li> </ul>
営業費用	12,426	43.1	14,442	45.2	2,016	16.2	<p>増</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親愛貯蓄銀行において、不良債権を売却したことに伴い債権売却損を計上したこと等により、銀行業における営業費用が増加</li> </ul>
営業総利益	16,419	56.9	17,536	54.8	1,117	6.8	
販管費	14,187	49.2	20,169	63.1	5,982	42.2	<p>増</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KCカードにおいて利息返還損失引当金繰入額が増加したことや、ケージェイアイやハイキャピタルの連結子会社化や、親愛貯蓄銀行における不良債権処理に伴い貸倒引当金繰入額がそれぞれ一時的要因として増加したこと等により貸倒関係費が増加</li> </ul>
営業利益	2,232	7.7	▲ 2,632	▲ 8.2	▲ 4,864	—	
経常利益	1,661	5.8	▲ 2,459	▲ 7.7	▲ 4,121	—	<p>増</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、当社においてライツオフリングに係る費用を計上</li> </ul> <p>減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業利益が減少</li> </ul>
当期純利益	1,144	4.0	▲ 3,754	▲ 11.7	▲ 4,898	—	<p>減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経常利益が減少</li> <li>・親愛貯蓄銀行において、のれんの減損等による特別損失を計上</li> </ul>

# 平成27年3月期 第2四半期 連結決算概要

## ■事業の種類別セグメントの営業収益及び営業利益(連結・累計)の前期比較

単位:百万円

		平成25年9月 (累計)	平成26年9月 (累計)	前期 増減	増減率 (%)	主な増減要因
金融事業	営業収益	12,243	10,162	▲ 2,081	▲ 17.0	割賦立替金や国内の営業貸付金の残高が減少したことにより割賦立替手数料や貸付金利息が減少したうえ、回収がやや低調に推移したことによりその他の金融収益が減少したこと等により減少
	営業利益	3,884	810	▲ 3,073	▲ 79.1	営業収益の減少に加えて、KCカードにおける利息返還損失引当金繰入額の増加等により販売費及び一般管理費が増加したことにより減少
不動産事業	営業収益	2,035	3,472	1,437	70.6	消費税増税前の駆け込み需要の集中によって一部の物件の完工引渡しが年度を跨いだことや、販売戸数が堅調に推移していること、さらに供給過多な状況も出始めている中で、適正な在庫水準の確保・管理に努めたことにより、粗利率が改善され営業収益、営業利益とも増加
	営業利益	149	358	208	139.4	
アミューズメント事業	営業収益	8,763	7,697	▲ 1,066	▲ 12.2	販促・ブランディング活動の積極展開により顧客単価及び集客数の下支えには奏功したものの、消費税増税による個人消費減退の影響を補うには至らず、営業収益、営業利益とも減少
	営業利益	788	399	▲ 389	▲ 49.4	
海外事業	営業収益	5,102	9,817	4,715	92.4	親愛貯蓄銀行が子会社から貸付事業を譲受けたことにより、銀行業における営業収益が増加したことや、前期末に取得したケージェイアイ及びハイキャピタルを期首から損益についても連結したことにより貸付金利息についても増加したこと等により増加
	営業利益	▲ 1,510	▲ 3,318	▲ 1,808	—	
その他の事業	営業収益	1,289	1,320	31	2.4	
	営業利益	▲ 35	35	71	—	
計	営業収益	29,435	32,471	3,036	10.3	
	営業利益	3,276	▲ 1,714	▲ 4,991	—	
消去又は全社	営業収益	▲ 590	▲ 492	98	—	
	営業利益	▲ 1,044	▲ 918	126	—	
連結	営業収益	28,845	31,979	3,134	10.9	
	営業利益	2,232	▲ 2,632	▲ 4,864	—	

## **主要な連結経営指標等の推移(四半期毎)**

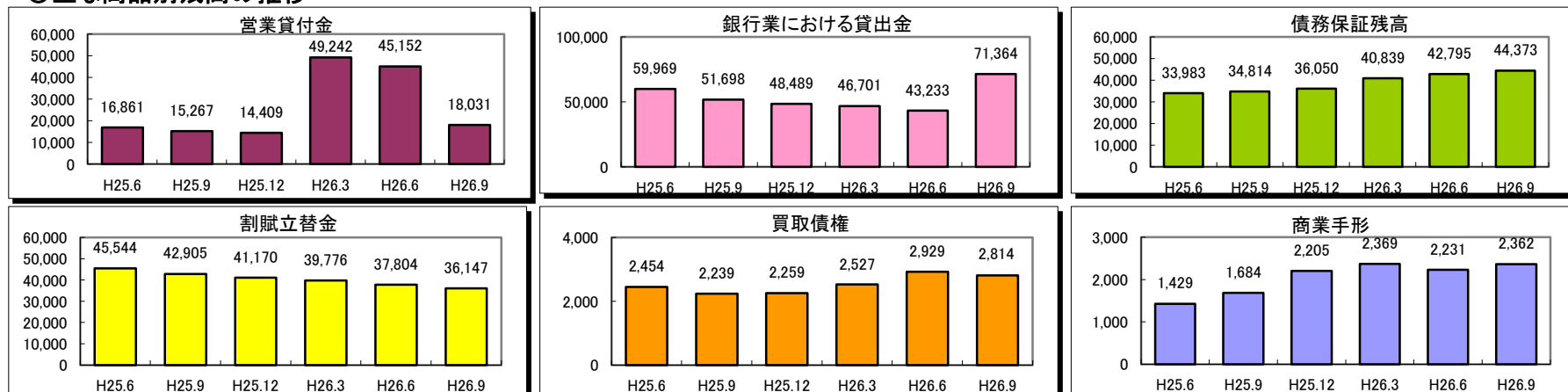
# 主要な連結経営指標等の推移(四半期毎)

## ■商品別残高

単位:百万円

	H24.12	H25.3	H25.6	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9
商業手形	2,037	1,656	1,429	1,684	2,205	2,369	2,231	2,362
営業貸付金	20,241	18,227	16,861	15,267	14,409	49,242	45,152	18,031
銀行業における貸出金	22,517	48,210	59,969	51,698	48,489	46,701	43,233	71,364
割賦立替金	51,756	48,133	45,544	42,905	41,170	39,776	37,804	36,147
買取債権	2,482	2,529	2,454	2,239	2,259	2,527	2,929	2,814
長期営業債権	5,837	4,686	4,153	3,110	2,769	3,951	4,220	3,616
債務保証残高	33,235	33,194	33,983	34,814	36,050	40,839	42,795	44,373

### ◎主な商品別残高の推移



### コメント

- ①営業貸付金については、H26.3に韓国においてケージェイアイ及びハイキャピタルを買収したことにより増加いたしました。H26.8にネオラインクレジットを含めた3社の貸付事業を親愛貯蓄銀行に譲渡したことにより減少いたしました。
- ②銀行業における貸出金は、韓国において親愛貯蓄銀行が(株)未来貯蓄銀行から引き継いだ一部資産や、(株)ソロモン貯蓄銀行や(株)エイチケー貯蓄銀行からの譲渡を受け残高を伸ばしておりましたが、債権の回収・償却や、他社で発生したクレジットカード情報流出事件の影響で営業活動が制限されたことによる新規貸付実行の鈍化や、不良債権の売却等により減少しておりましたが、H26.8に子会社から貸付事業を譲受け増加いたしました。
- ③債務保証残高については、平成26年10月までに地域金融機関10行と保証業務提携を行うなど積極的に債務保証残高の積み上げを図っています。
- ④割賦立替金については、KCカードにおいて、ショッピング残高はほぼ残高の維持で推移していますが、キャッシング残高は一貫して減少しており、そのため合計残高は減少傾向にあります。
- ⑤買取債権については、新たな債権の買取を積極的に行っており、回収による残高の減少を補って残高は増加傾向にあります。
- ⑥商業手形については、取引金融機関の商業手形枠の拡大等を背景として取り組んだ結果、残高は増加傾向にあります。

# 主要な連結経営指標等の推移(四半期毎)

## ■貸倒引当金等

単位:百万円

◎貸倒引当金	H24.12	H25.3	H25.6	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9
不良債権残高(a)	14,361	15,387	17,679	18,471	18,410	27,413	24,089	24,292
貸倒引当金(b)	9,400	9,195	10,838	9,996	11,422	11,684	10,814	12,510
不良債権残高に対する引当率 (b)/(a)	65.5%	59.8%	61.3%	54.1%	62.0%	42.6%	44.9%	51.5%
割賦立替金に対する貸倒引当金	6,981	5,861	5,085	4,292	3,537	3,005	2,781	2,588
その他の貸倒引当金	999	986	934	885	1,406	1,465	1,355	1,348

※ 担保又は保証が付されている債権については、債権額から担保の処分見込額及び保証による回収見込額を減額し、その残額について債務者の財政状態及び経営成績を考慮して貸倒引当金を算定しています。また、その他の貸倒引当金は買取債権、求償権、会員権、投資その他の資産等に対して引当を行っているものです。

### ◎利息返還損失引当金

利息返還損失引当金	8,856	8,438	8,145	7,593	7,388	6,833	6,463	6,555
割賦立替金に対する利息返還損失引当金	11,727	10,738	9,304	8,544	7,723	6,605	6,065	5,686

### ◎債務保証損失引当金

債務保証残高(c)	33,235	33,194	33,983	34,814	36,050	40,839	42,795	44,373
うち 無担保	16,634	16,458	16,293	16,506	16,853	21,007	22,055	22,718
うち 有担保	16,600	16,735	17,689	18,308	19,196	19,832	20,740	21,654
債務保証損失引当金(d)	459	590	524	497	457	441	431	453
債務保証残高に対する引当率 (d)/(c)	1.4%	1.8%	1.5%	1.4%	1.3%	1.1%	1.0%	1.0%
その他子会社が負っている偶発債務に対する引当金 ※	3,335	3,427	3,513	3,578	—	—	—	—

※その他子会社が負っている偶発債務に対する引当金は、H25.12期に㈱整理回収機構に対する借入金等を完済したことにより偶発債務が解消されたため戻入を行なっています。

#### コメント

- 不良債権残高に対する引当率は、韓国の親愛貯蓄銀行において債権譲受け等により残高が増加したことや、個人回生/信用回復手続や債権の延滞が想定を上回って増加したこと等による引当金の積み増し等により、高い水準で推移していましたが、H26.3期に貸倒引当金の見積りを貸倒実績率に基づく引当方法に変更し貸倒引当金繰入額が減少したことにより減少しています。なお、H26.9期は親愛貯蓄銀行において不良債権処理に伴い貸倒引当金の積み増しを行ないましたが、これは今後の黒字化に向け、一時的要因として損失計上を行ったものであります。
- 利息返還損失引当金については、直近の過払い実績から将来の発生見込みを考慮して引当しており、請求件数、過払い返還額の落ち着きに伴い、やや減少しています。
- H23.9期にKCカードを連結子会社としたことにより、債権の貸倒れによる損失に備えるため、割賦立替金に対する貸倒引当金及び利息返還損失引当金を計上しており、割賦立替金残高の減少に比例し減少しています。
- 債務保証損失引当金について、提携金融機関を拡大し、無担保貸付に対する債務保証を中心に残高の積み上げを図る一方、無担保貸付に対する債務保証に比べリスク負担率が低い有担保貸付に対する債務保証についても積極的に残高の積み上げを図った結果、リスク負担が軽減され債務保証残高に対する引当率は減少しています。



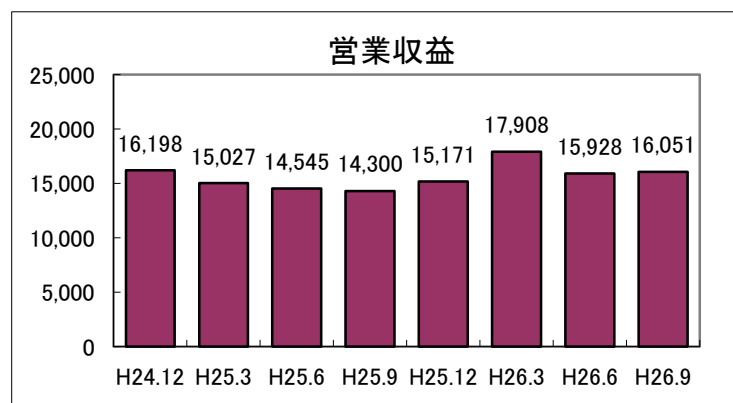
# 主要な連結経営指標等の推移(四半期毎)

## ■営業収益

単位:百万円

	H25.3期			H26.3期					H27.3期	
	H24.12	H25.3	累計	H25.6	H25.9	H25.12	H26.3	累計	H26.6	H26.9
受取割引料	42	45	190	36	37	43	65	183	48	46
貸付金利息	1,285	978	5,123	892	788	680	693	3,054	3,043	937
買取債権回収高	593	708	2,403	616	677	762	961	3,018	710	701
割賦立替手数料	2,440	2,177	10,016	2,046	1,923	1,833	1,659	7,463	1,622	1,548
保証料収入	431	543	1,751	546	555	561	713	2,377	650	665
その他の金融収益	2,751	917	6,868	708	598	519	1,264	3,091	309	273
償却債権取立益	1,843	1,663	6,634	1,247	1,139	1,189	1,559	5,135	1,174	1,169
不動産事業売上高	1,064	1,305	4,285	703	1,326	1,835	1,103	4,970	1,846	1,626
アミューズメント事業売上高	4,475	4,354	13,484	4,222	4,493	3,947	3,846	16,510	3,631	4,054
完成工事高(設計・施工)	655	559	1,339	490	15	525	341	1,372	132	438
銀行業における営業収益※		1,222	1,222	2,431	2,200	2,622	5,137	12,392	2,194	4,084
その他	616	551	2,364	601	542	650	561	2,356	564	503
<b>営業収益</b>	<b>16,198</b>	<b>15,027</b>	<b>55,683</b>	<b>14,545</b>	<b>14,300</b>	<b>15,171</b>	<b>17,908</b>	<b>61,926</b>	<b>15,928</b>	<b>16,051</b>

※H24.10に親愛貯蓄銀行が貯蓄銀行業を開始したことにより、H25.3期から銀行業における営業収益を別掲しています。



### コメント

営業収益は、概ね順調に推移しています。

主な内訳としては、

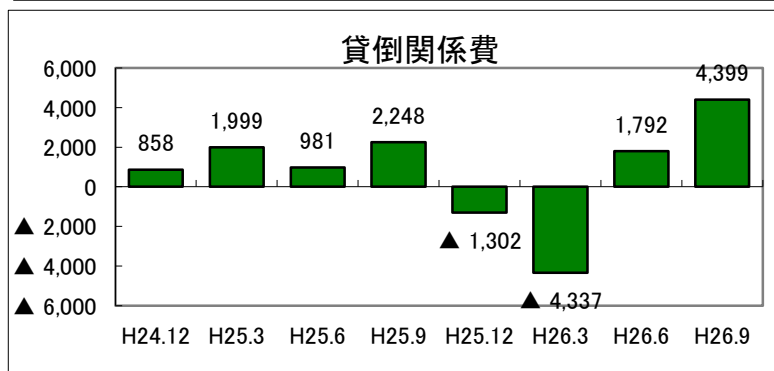
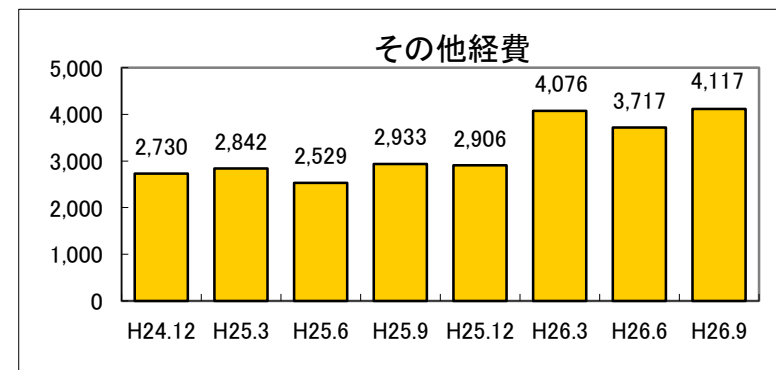
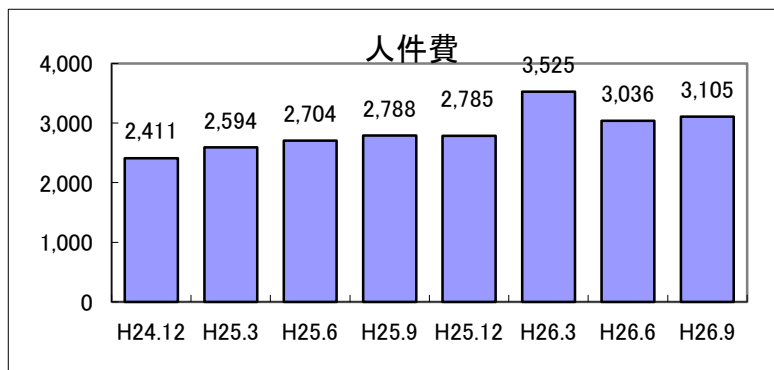
- ①貸付金利息はH26.6期から韓国のケージェイアイ及びハイキャピタルをPL連結対象としたことにより増加していますが、H26.9期には、親愛貯蓄銀行に貸付事業を譲渡したことにより減少いたしました。また、その他の金融収益は、H26.3期の武富士債権の一部譲渡により増加した他、全体として回収金額の減少に伴い減少しています。さらに、償却債権取立益も同じく減少していますが、直近ではほぼ横ばいで推移しています。
- ②割賦立替手数料は、ショッピング残高はほぼ横ばいで推移していますが、キャッシング残高は一貫して減少しており、そのため全体として減少傾向にあります。
- ③銀行業における営業収益は、親愛貯蓄銀行における債権の譲受けによる増加や回収・債権売却等による減少等、債権残高の増減により四半期毎の収益は異なりますが、H26.9期は子会社から貸付事業を譲受けたことに伴い増加いたしました。なお、H26.3期は大幅に増加していますが、これは連結対象期間を見直したことに伴い会計期間が3ヶ月間加算されたことにより増加したものです。
- ④H24.9期からアドアーズ、ブレイクの連結子会社化によりアミューズメント事業売上高は順調に推移していましたが、直近では消費税増税や無料ソーシャルゲームの拡大等の影響を受け減少しています。
- ⑤不動産事業売上高は回復しつつあります。

# 主要な連結経営指標等の推移(四半期毎)

## ■販売費及び一般管理費

単位:百万円

	H25.3期			H26.3期					H27.3期	
	H24.12	H25.3	累計	H25.6	H25.9	H25.12	H26.3	累計	H26.6	H26.9
人件費	2,411	2,594	9,349	2,704	2,788	2,785	3,525	11,804	3,036	3,105
その他経費	2,730	2,842	9,802	2,529	2,933	2,906	4,076	12,446	3,717	4,117
貸倒関係費	858	1,999	3,740	981	2,248	▲ 1,302	▲ 4,337	▲ 2,409	1,792	4,399
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>6,001</b>	<b>7,437</b>	<b>22,892</b>	<b>6,216</b>	<b>7,970</b>	<b>4,389</b>	<b>3,264</b>	<b>21,841</b>	<b>8,546</b>	<b>11,622</b>



### コメント

(貸倒関係費)

・H26.3期は親愛貯蓄銀行において貸倒引当金の算定方法を貸倒実績率に基づく方法に変更し、貸倒引当金繰入額が減少したこと等により大きく減少していますが、H26.9期は、KCカードにおいて利息返還損失引当金繰入額が増加したことや、H26.6期からケージェイアイ及びハイキャピタルをPL連結対象としたことや、親愛貯蓄銀行において不良債権処理に伴い貸倒引当金繰入額が一時的要因として増加したこと等により増加いたしました。

(人件費及びその他経費)

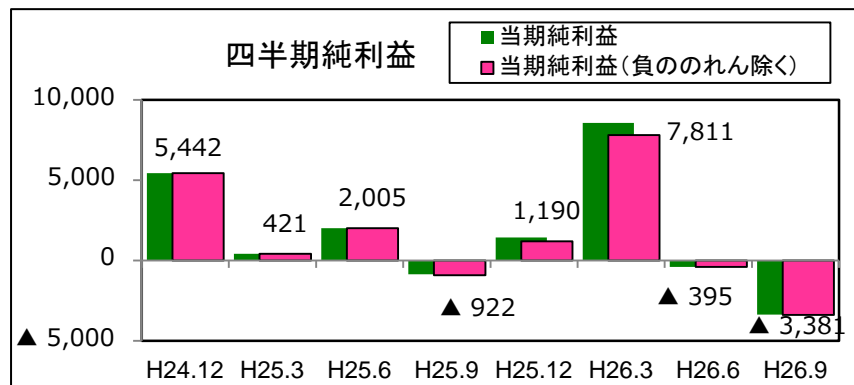
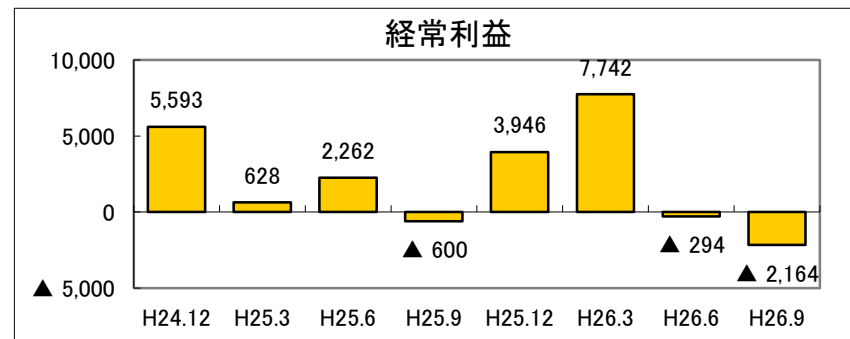
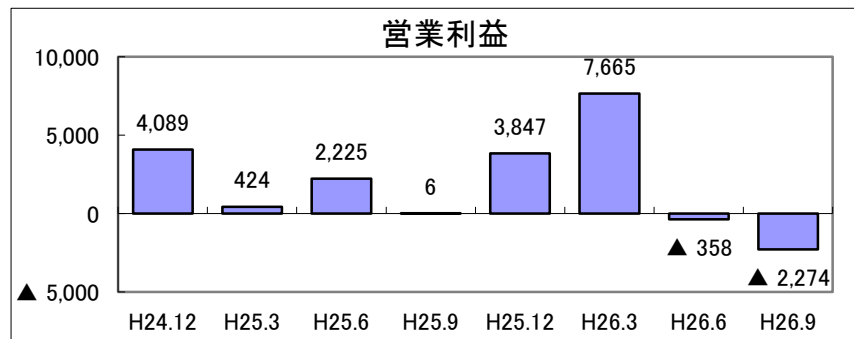
・H26.3期は親愛貯蓄銀行において連結対象期間を見直したことに伴い3ヶ月分加算され増加しましたが、全体的に当社グループの事業規模の拡大に伴い、ゆるやかに増加しています。

# 主要な連結経営指標等の推移(四半期毎)

## ■四半期連結業績

単位:百万円

	H25.3期			H26.3期					H27.3期	
	H24.12	H25.3	累計	H25.6	H25.9	H25.12	H26.3	累計	H26.6	H26.9
営業利益	4,089	424	12,005	2,225	6	3,847	7,665	13,745	▲ 358	▲ 2,274
経常利益	5,593	628	13,704	2,262	▲ 600	3,946	7,742	13,351	▲ 294	▲ 2,164
当期純利益	5,442	421	13,309	2,005	▲ 861	1,441	8,560	11,145	▲ 395	▲ 3,359
うち負ののれん発生益	—	—	294	—	60	251	748	1,060	—	22
〃 除く当期純利益	5,442	421	13,014	2,005	▲ 922	1,190	7,811	10,085	▲ 395	▲ 3,381



### コメント

H26.9期は、営業利益、経常利益、四半期純利益とも減少いたしました。主な要因としては以下のとおりです。

営業収益は、割賦立替金手数料やその他の金融収益が減少したことや、アミューズメント事業売上高が減少したことにより減少した一方で、貸付金利息や銀行業における営業収益が増加したことや、不動産事業売上高が増加したこと等により増加した結果、増収となりましたが、

- ①KCカードにおいて利息返還損失引当金繰入額が増加したことや、当期からケージェイアイ及びハイキャピタルをPL連結対象としたことや親愛貯蓄銀行における不良債権処理に伴い貸倒引当金繰入額が一時的要因として増加したこと等を要因として貸倒関係費が増加したこと
  - ②親愛貯蓄銀行において不良債権の売却による債権売却損を銀行業における営業費用に計上したこと
  - ③親愛貯蓄銀行においてのれんの減損損失を計上したこと
- などにより、営業利益、経常利益、四半期純利益とも減益となりました。

# 主要な連結経営指標等の推移

## ■ 過払金返還請求に伴うキャッシュアウト額等

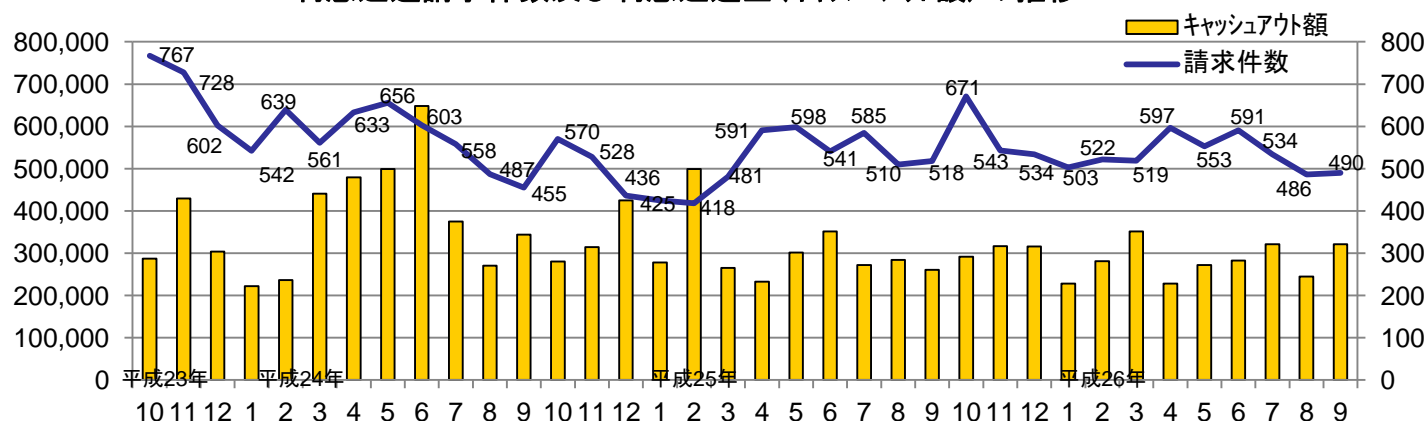
単位: 件、千円

	H23.10	H23.11	H23.12	H24.1	H24.2	H24.3	H24.4	H24.5	H24.6	H24.7	H24.8	H24.9
請求件数	767	728	602	542	639	561	633	656	603	558	487	455
前年同月比	51.9%	38.7%	18.3%	19.6%	10.9%	▲5.1%	40.7%	83.8%	36.7%	73.3%	▲38.6%	▲40.3%
キャッシュアウト額	287,401	429,263	303,902	222,316	236,405	441,019	479,082	498,907	648,290	375,019	270,622	343,812

	H24.10	H24.11	H24.12	H25.1	H25.2	H25.3	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	H25.9
請求件数	570	528	436	425	418	481	591	598	541	585	510	518
前年同月比	▲25.7%	▲27.5%	▲27.6%	▲21.6%	▲34.6%	▲14.3%	▲6.6%	▲8.8%	▲10.3%	4.8%	4.7%	13.8%
キャッシュアウト額	280,099	314,408	424,735	278,221	499,200	265,434	232,533	301,858	351,328	272,207	283,809	260,768

	H25.10	H25.11	H25.12	H26.1	H26.2	H26.3	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	H26.9
請求件数	671	543	534	503	522	519	597	553	591	534	486	490
前年同月比	17.7%	2.8%	22.5%	18.4%	24.9%	7.9%	1.0%	▲7.5%	9.2%	▲8.7%	▲4.7%	▲5.4%
キャッシュアウト額	291,590	316,592	315,596	228,321	280,992	351,843	228,222	272,040	282,802	321,240	244,395	321,177

### 利息返還請求件数及び利息返還金(キャッシュアウト額)の推移



#### コメント

・過払金請求件数については、過払を取り扱う弁護士事務所が、地方の完済顧客を中心に掘り起しを行っているなど、依然先行きは不透明ですが、増加幅は限定されており、直近では前年同月比減少しています。

・キャッシュアウト額につきましては、H24.3期以降、早期和解を目的として任意和解を推進したことで一時的に和解件数が増加し、キャッシュアウト額も増加していましたが、直近ではほぼ同水準で推移し、落ち着きを見せています。

◎ 当社グループでは、平成27年1月5日付でKCカードにおける「KCカード」ブランドを中心とした一部事業を吸収分割により新会社に承継させた上で当該全株式を譲渡する旨、公表しております。対象には過払債権も含まれており、参考までにKCカードを除く、過払金返還請求に伴うキャッシュアウト額等の直近1年間の推移を記載すると以下の通りとなります。

	H25.10	H25.11	H25.12	H26.1	H26.2	H26.3	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	H26.9
請求件数	225	146	139	134	160	149	152	157	167	166	144	155
キャッシュアウト額	47,653	46,458	68,978	51,430	55,074	57,936	55,306	53,312	51,052	50,763	30,579	52,209

## 平成27年3月期連結業績予想の進捗

単位:百万円

	26年3月期通期		27年3月期通期		27年3月期第2四半期		通期進捗率 (%)
	実績	百分比 (%)	業績予想	百分比 (%)	実績	百分比 (%)	
営業収益	61,926	100.0	69,291	100.0	31,979	100.0	46.2
営業利益	13,745	22.2	2,656	3.8	▲2,632	—	—
経常利益	13,351	21.6	2,738	4.0	▲2,459	—	—
当期純利益	11,145	18.0	11,239	16.2	▲3,754	—	—

## コメント

当社グループでは、今後の更なる成長のための基盤形成に向けて、M&A及び事業再編を活用した、業態の構造的な改革に積極的に取り組んでおり、今期はそのための基礎固めの時期であると位置づけております。このため、変革期にある当期においては、一時的に営業費用等が増加し、営業利益及び経常利益が大きく減少するものと見込んでおります。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましても、親愛貯蓄銀行において、不良債権売却による債権売却損の計上や、不良資産の整理等に備えた貸倒引当金の積み増し等を行ないましたが、これは黒字化を見据えた一時的な損失計上であり、今後は収益構造の着実な改善を見込んでおります。このように費用先行となった結果、営業利益、経常利益及び当期純利益とも減益となりましたが、平成26年8月13日公表の通期連結業績予想に対して、ほぼ計画通りの進捗と考えております。

当社グループでは、今後、以下の方策により、業績回復を見込んでおります。

### ①業績拡大に向けての様々なM&Aへの取組み

- ・韓国スタンダードチャータードキャピタル(株)及び(株)韓国スタンダードチャータード貯蓄銀行の株式取得

### ②事業再編による収益構造の向上

- ・「KCカード」ブランドをヤフー(株)及びソフトバンク・ペイメント・サービス(株)に譲渡し、当社グループのクレジットカード事業をNUCSの「NUCS」ブランドを中心とする体制へ再構築

- ・韓国においてネオラインクレジットやケージェイアイ、及びハイキャピタルの貸付事業を親愛貯蓄銀行へ事業譲渡

また、当期純利益につきましては、①の株式取得等に伴い負ののれん発生益等が見込まれるため、前期を上回る水準を確保できるものと見込んでおります。

従いまして、平成27年3月期通期連結業績予想につきましては、平成26年8月13日公表の業績予想から変更はございません。

(注)以上の業績見通しは、現時点までの進展に基づく入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。当社グループは、今後ともM&Aや債権買取り等に積極的に取り組むことにより更なる業容拡大を目指すとともに、事業再編による当社グループ全体の効率化を企図している等の事情にあり、実際の業績は様々な要因の変化によって、記述されている将来の見通しとは大きく異なる可能性があります。

**(参考1)**

**平成27年3月期 第2四半期  
個別決算概要**

■業績(累計)の前期比較

単位:百万円






	25年9月 (累計)		26年9月 (累計)		前期 増減	増減率 (%)	主な増減要因
	実績	百分比 (%)	実績	百分比 (%)			
営業収益	3,234	100.0	2,554	100.0	▲ 680	▲ 21.0	減 ・子会社の前期業績が2期前の業績に比べ減少したため子会社からの受取配当金が減少 ・前期、債権買取業務について完済となったためその他の金融収益が減少
営業費用	479	14.8	220	8.6	▲ 259	▲ 54.0	減 ・前期、(株)整理回収機構に対する債務が完済となったことにより借入金利息が減少
営業総利益	2,754	85.2	2,334	91.4	▲ 420	▲ 15.3	
販管費	896	27.7	816	32.0	▲ 79	▲ 8.9	
営業利益	1,858	57.5	1,517	59.4	▲ 341	▲ 18.4	
経常利益	782	24.2	1,551	60.7	769	98.3	増 前期、ライツ・オフリングに係る株式交付費の費用計上により当期増加 減 営業利益が減少
当期純利益	761	23.6	1,552	60.8	790	103.8	増 経常利益が増加



**(参考2)**  
**主要な連結子会社の業績の概要**

## 金融事業 (P/L累計)

単位:百万円


			H25.9	H26.9	前期増減
 日本保証	株式会社日本保証	営業収益	5,470	4,626	▲ 843
		営業利益	1,965	996	▲ 968
	パルティール債権回収株式会社	営業収益	614	664	50
		営業利益	57	70	12
	KCカード株式会社	営業収益	4,949	4,219	▲ 730
		営業利益	1,840	▲ 283	▲ 2,124
	株式会社クレディア	営業収益	587	413	▲ 173
		営業利益	▲ 95	▲ 18	77
	株式会社NUCS	営業収益	-	110	-
		営業利益	-	12	-

(注)NUCSは当第1四半期からPL連結対象としているため、前期比較をしております。

また、日本保証はH26.1に決算月を2月から3月に変更したため、H25.9期については、平成25年8月の財務諸表に、9月の重要な取引について連結上必要な調整を行ったものであります。

### 不動産事業 (P/L累計)

単位:百万円

			H25.9	H26.9	前期増減
	キーノート株式会社	営業収益	1,626	2,932	1,305
		営業利益	47	241	193






### アミューズメント事業 (P/L累計)

単位:百万円

			H25.9	H26.9	前期増減
	アドアーズ株式会社	営業収益	8,807	7,880	▲ 927
		営業利益	697	400	▲ 297
	株式会社ブレイク	営業収益	1,355	1,468	112
		営業利益	75	60	▲ 15

## 海外事業 (P/L累計)

単位:百万円

		H25.9	H26.9	前期増減
 친애저축은행 親愛貯蓄銀行株式会社	営業収益	4,632	5,912	1,280
	営業利益	▲ 1,601	▲ 3,591	▲ 1,990
 NEOLINE CREDIT ネオラインクレジット貸付株式会社	営業収益	469	227	▲ 242
	営業利益	120	▲ 99	▲ 220
 KJI Consumer Finance LLC. ケージェイアイ貸付金融有限会社	営業収益	-	2,226	-
	営業利益	-	297	-
 HICAPITAL ハイキャピタル貸付株式会社	営業収益	-	1,253	-
	営業利益	-	1,383	-
 J TRUST ASIA J TRUST ASIA PTE. LTD.	営業収益	-	6	-
	営業利益	-	▲ 39	-

(注1) J TRUST ASIA は前第4四半期から、ケージェイアイ貸付金融、ハイキャピタル貸付は当第1四半期からPL連結対象としているため、前期比較をしておりません。なお、J TRUST ASIAのH26.9期は、6月の財務諸表に7~9月の重要な取引について、連結上必要な調整を行ったものであります。

(注2)  
換算レート  
について

H25.9	親愛貯蓄銀行	1ウォン≒0.08528円で換算しています。6月の財務諸表に7~9月の重要な取引について連結上必要な調整を行っており、調整額については1ウォン≒0.08642円で換算しています。					
	ネオラインクレジット貸付	1ウォン≒0.08795円で換算しています。					
H26.9	相手通貨ベースで作成した月次P/Lを、月中平均レートで換算したものの累計となっています。						
	対象会社	月中平均レート (AR) 単位:円					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
	親愛貯蓄銀行、ネオラインクレジット貸付、ケージェイアイ貸付金融、ハイキャピタル貸付(1KRW)	0.0984	0.0996	0.1003	0.0999	0.1007	0.1038
J TRUST ASIA (1SGD) 7月以降は連結調整取引で使用	81.74	81.37	81.56	81.64	81.81	82.29	

## その他の事業 (P/L累計)

単位:百万円

			H25.9	H26.9	前期増減
	Jトラストシステム株式会社	営業収益	408	345	▲ 63
		営業利益	▲ 51	▲ 17	33
	株式会社エーエーディ	営業収益	395	392	▲ 2
		営業利益	16	20	4

- 本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘する目的としたものではありません。
- 本資料は、正確性を期すために慎重に作成しておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の予測や情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料に記載された意見や予測等の情報は、本資料作成時点の当社の判断によるものであり、潜在的リスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績及び記載されている将来見通しとは乖離が生じることがありますのでご承知ください。

## 【 本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先 】

Jトラスト株式会社 広報・IR部

TEL (03) 4330-9100

[URL:http://www.jt-corp.co.jp/](http://www.jt-corp.co.jp/)